

艦娘 フェティシズム

-Kan Colle Fetishism book-

創刊號



ほかちゅ画

18歳以上対象
DOUJIN * For Adult Only



フェティシズム(英語：fetishism)とは

—————現代の日本でフェティシズムと
いう場合、心理学的な意味における

「性的フェティシズム」

を指すことが多い。

本来、精神医学ではかなり深いこだわりを指す
ものであるが、省略形・俗語でフェチとも言い、
単なる性的嗜好程度の意味で使われている。

(Wikipedia「フェティシズム」の項より引用)

-とある人物の日記-

私は長い間「女性の肢体の魅力」について
深く考えてきた。不規則な曲線や凹凸から
成る美しい造形は神をも魅了するほどの
魅力を持つと云われている。

艦娘においてもそれは例外ではなく、
彼女達を嫁ぐ為に提督業を生業とする者が
後を絶たないと云う。

私は彼女達を研究するべく、
とある鎮守府に潜入しそのfetishismを
撮影する事に成功した。

ここに記されているのはその一部のみ
(一部作画が乱れているものが含まれる)
となっているが、本書を手にとっていた
だいた方々にその魅力が伝わればこの

…文章はここで途切れている



香取型練習巡洋艦二番艦 鹿島

太腿フェティシズム

寒い日のクリスマスの事だった。

とある某所にてクリスマスパーティーをしている鹿島を目撃した私はステルス迷彩を使って内部への侵入に成功した。

今か今かと撮影の機会を窺っていたところ、予想外の事態が発生した。

あろうことか彼女はキャンディケインを太腿に挟み込み

「提督さん♥私からのクリスマスプレゼント受け取って下さい♥」

と言いつつ放ったのだ。

呆然と立ち尽くす提督を尻目にすかさずその姿を撮影した私であったが、危うく自分がクリスマスプレゼントを受け取ってしまいそうになるほど強烈なフェティシズムを放っていた。

プレゼントは受け取られなかったようだが、私も提督も

一生忘れられないクリスマスプレゼントをいただいてしまった事は言うまでもないだろう。

(リボンと同系色の赤いショーツのような布地は果たしてリボンと繋がっているのかどうか…真相は謎のままである。)



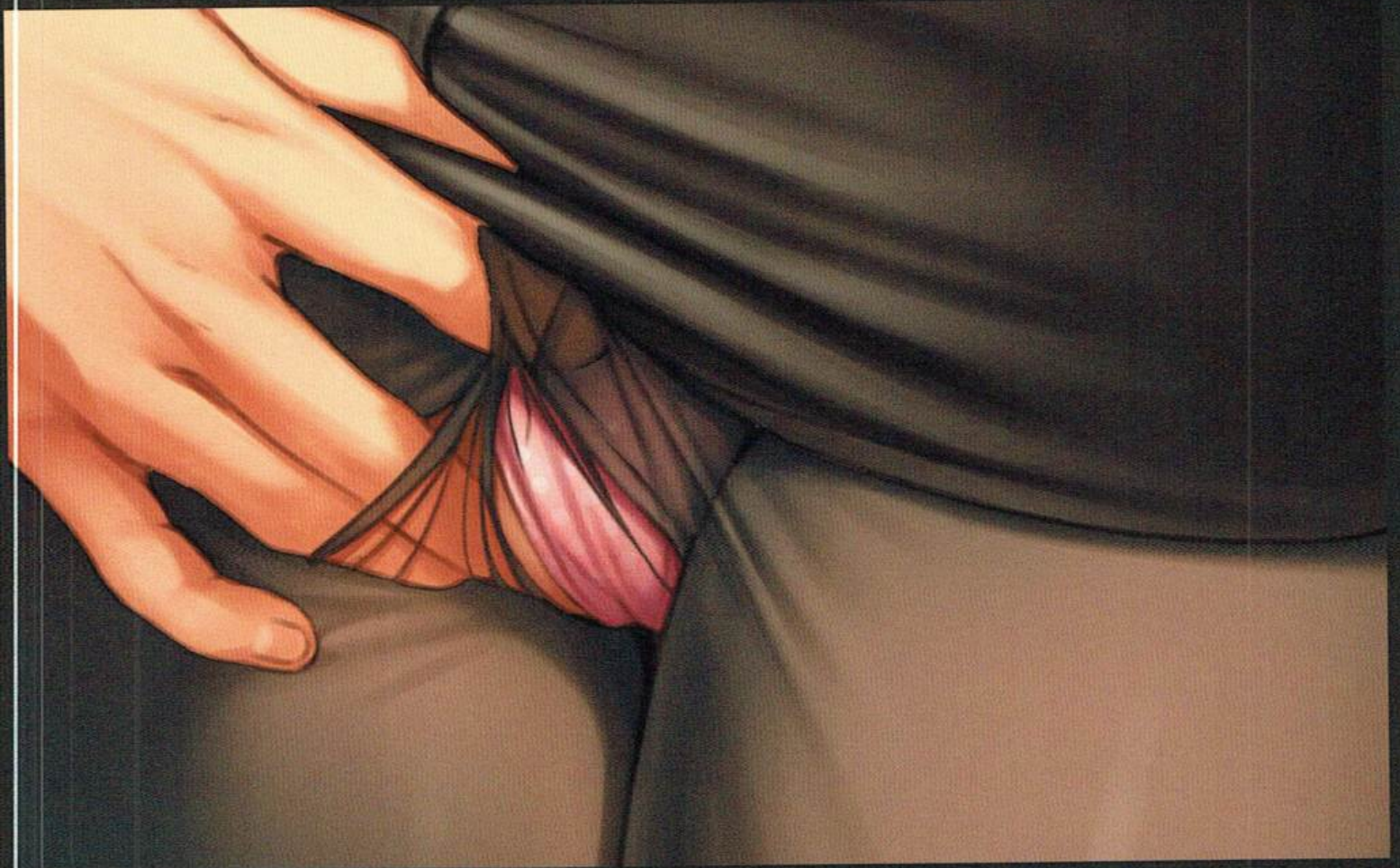


陽炎型駆逐艦十三番艦 浜風 腋と谷間フェティシズム

——鎮守府のとある一室に彼女は現れた。
おおよそ駆逐艦とは言い難い分厚い胸部装甲を備えた彼女は、
鎮守府に着任したばかりの艦娘のようであった。
彼女の私服なのだろうか——まだあどけない表情の彼女に似つかわしくない
セクシーな装いは場所が場所ということもあり、なんとも言えない背徳感を
感じさせた。
駆逐艦はムダ毛のケアもしっかりしなければならないのか、入念にチェックが
なされている彼女の腋はあたかも性的機能を備えた部位であるという
錯覚を覚えてしまうほど淫らな造形を晒していた。
そして何より特筆すべきは胸部装甲中央部から垣間見える谷間部である。
厚い二つの胸部装甲がふつかり合う事によって生じた深い谷間は、一体今後
どれだけの人間を飲み込んでいくのであろうか。
まるで思春期の少年の頃の様な妄想にふけてしまっていた私は、
ふと我に返った時に彼女の下半身から恐ろしいほどのフェティシズムが
ほとばしっている事に気が付いた。
詳しい事についてはこの先述べていくとする。是非堪能していただきたい。



DAY 6.30



陽炎型駆逐艦十三番艦 浜風 破れタイツフェティシズム

私の目に飛び込んできたのは信じられない光景であった。
彼女の肢体を入念にチェックしていた人物がふいにタイツを破いて
しまったのだ。

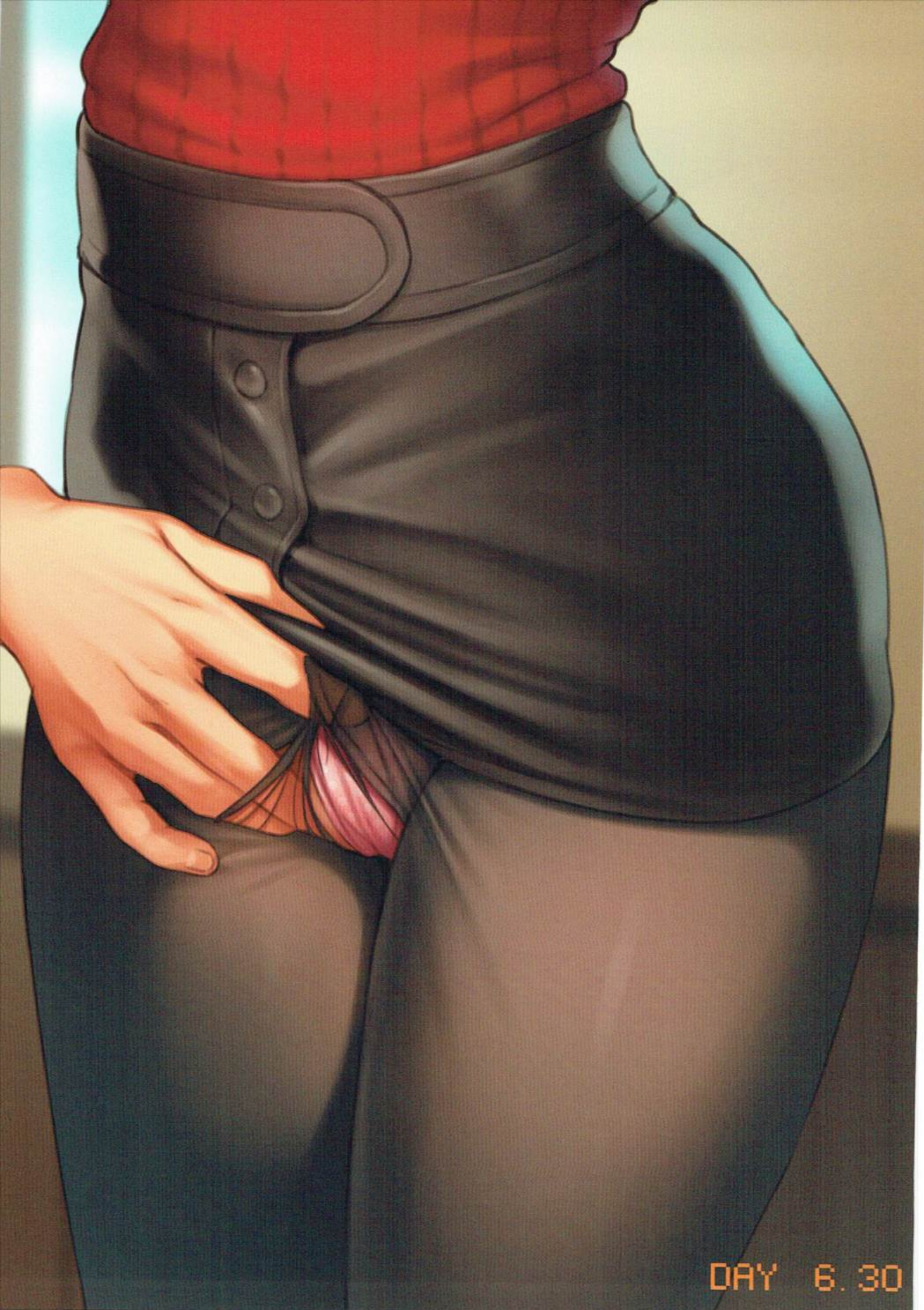
「きゃっ！」

彼女から小さい悲鳴と抵抗の言葉が発せられたが、何事もなかったかのように
淡々と下半身のチェックを開始した彼は、執拗に彼女の秘部を触り始めた。
彼の密かな楽しみだったのだろうか…？

突然の行為に動揺を隠せない彼女は、為す術もなくその場に硬直し
ただただ耐える事しかできない様子だった。

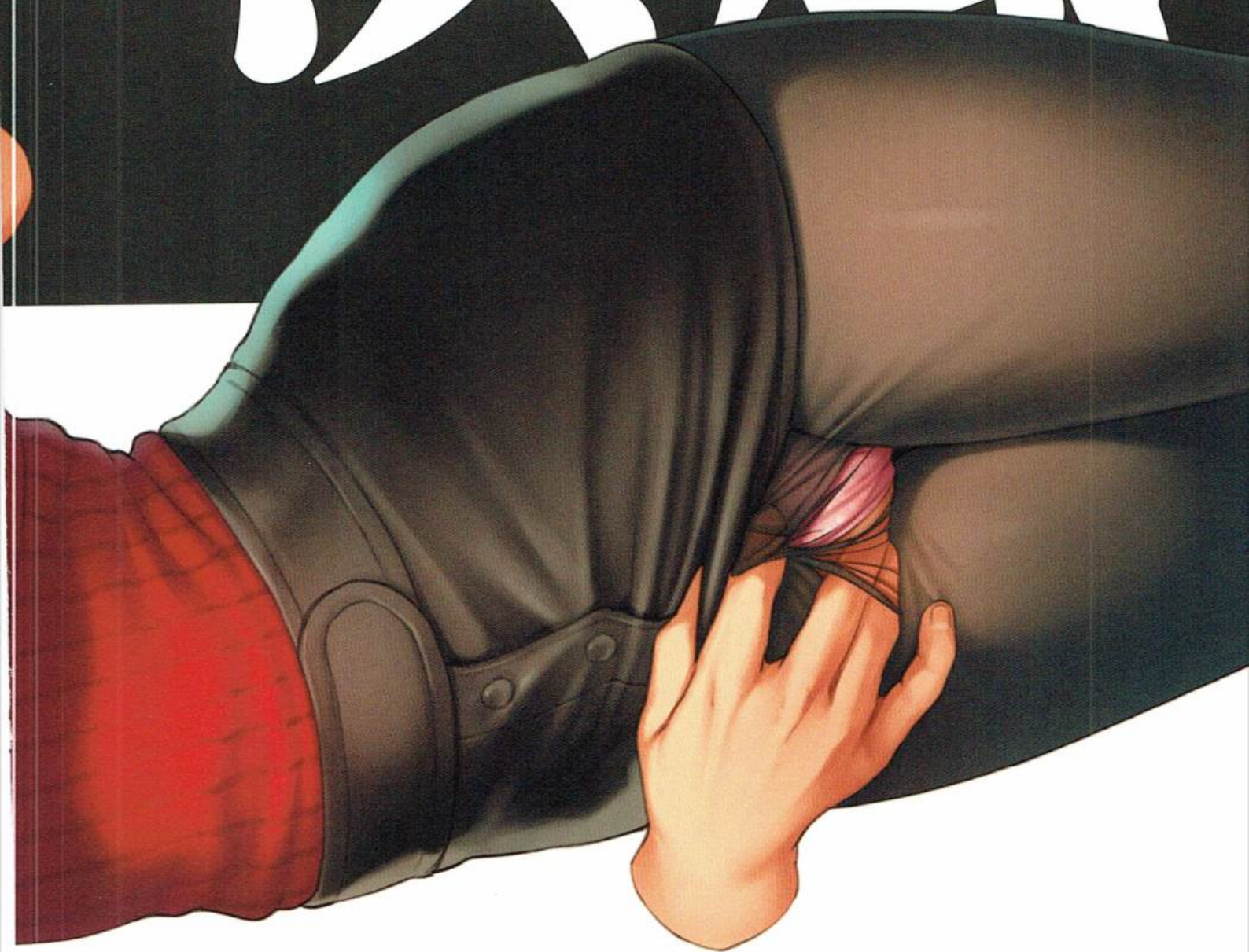
それにしても…タイツの下から覗く水玉の下着の何と淫靡な事か。
破れたタイツと下着が食い込んで盛り上がった柔らかい秘部は、
あまりにも強烈なフェティシズムを迸らせていた。

目的も忘れて彼の行為に便乗したい気持ちも山々であったが、まだ
他の使命も残されている。はやる気持ちを抑えてその場を後にする事にした。
(その後先程の場所から鈍い音と悪魔のような断末魔が聞こえてきた事は
心の中にそっと留めておくことにしよう)



近風

監



艦娘フェティシズム

-Kan Colle Fetishism book-

陽炎型駆逐艦十三番





妙高型重巡洋艦四番艦 羽黒 デコルテフェティシズム

デコルテとはフランス語で、首から胸元にかけての部分を目指す言葉である。女性らしさの象徴とも言われ、性的な要素もあれば、母性的な要素もある。

さて、艦娘達の中で性的かつ、母性的な要素もある艦といえば——私は、妙高型の四番艦、羽黒を思い浮かべた。しかしながら彼女のデコルテを撮影することは困難を極めた。妙高型が着用している制服によって、彼女のデコルテは貞操帯の様に全て覆い隠されているからだ。

三日三晩粘った末、耐えかねた私は最後の手段に打って出た。非常にリスクの高い行動であったが、入渠中であれば彼女の柔肌は否が応でも晒される事になるからだ。

ようやくお目にかかることができた羽黒のデコルテラインは、数日間溜まり続けた欲望を吐き出すのに十分なフェティシズムを放っていた。人目もはばからずその場で自慰行為に及んでしまった私は、射精の寸前近くにいた別の妙高型に気配を察知され、その場を緊急離脱せざるを得なくなってしまった。

…仕方がない。不本意だが撮影した写真に欲望を吐き出す事としよう。



DAY 5.23



呂号潜水艦 呂500 お尻フェティシズム

ある夏の日の事だった。潜入中の鎮守府に、ドイツから潜水艦が新しく配属されることとなった。

いつものように艦娘の潜入撮影を終え、潜伏場所に戻っている最中目の前に突如現れた彼女の姿に私は一瞬で虜になった。

とても機能を果たしているとは思えないその短すぎるセーラーと、下から覗く紺の水着に隠しきれない日焼け跡が日の下に晒されていたのである。憂いを帯びた表情で遠くを見つめる彼女は何を思っているのだろう――

などと考えている余裕は最早私には残されていなかった。

直立不動で真っ直ぐ立っているだけで体から溢れ出るフェティシズム。さすが外国艦の性能は伊達ではないといったところだろうか。

彼女を参考に日本製の潜水艦も量産されるとの事だったので、この鎮守府を去る前には一人くらい攫ってから帰ってもバチは当たらないかもしれない。



DAY 8.7



島風型駆逐艦一番艦 島風 多露出艦の私服フェティシズム

島風といえばその大胆で破廉恥なV字のビキニが露出した制服が有名であり、そのデザインに惹かれて提督を目指したという男子諸君も多いことであろう。

その制服のおかげなのかどうかは不明だが、移動速度が非常に速いという事と一隻しか建造されなかったという事もあってほとんど目にする事ができなかった彼女であったが、撮影時の彼女はそんないつもの姿からは予想もつかない状態で現れた。

寒さからなのだろうか、普段よりも厚めに着こなして寝ぼけた様子で登場した彼女は、よたよたとよろけながら控えめな黒タイツを露わにして見せた。誰よりも速い事をモットーにする彼女のことだ。きっと、いつもの制服はその厚手の服の下に着用しているのだろう。何と破廉恥な事か。一切肌を露出せずともここまでフェティシズムを感じさせるとは、駆逐艦最高峰と言わしめるだけの事はある。

因みに写真を見ればわかる通り私はこの後彼女に気づかれてしまい危うくこれまでの潜入の成果が全て水の泡となる所だったのだが…どうやってその場を切り抜けたのかはまた別の機会があればその時にでも話す事にしよう。



最後に



ご無沙汰しております。ぽかちゅです。
無事に本が出せていればいいのですが現時点でどうなってるか
検討もつきません。出せてほしいな！

さて、今回描ける枚数も限られていたのでどうしようかと
考えたのですが「いろんな艦娘のフェチが描きたい」という事で
一つひとつちょっとしたエピソードを加えて読み物として
楽しめるような構成にしてみました。
浜風だけいろんなとこに拘ってしまったので複数ページに
入れてみました。

こういった構成は初めてだったので非常に楽しく作る事が
できました。
やっぱり同人っていいね。

さて次のイベントですが次は予定では博麗神社例大祭に
参加する予定です。またパチュリーになるかと思えます。

もし追ってきてくださる方がいらっしゃいましたらその際には
一声かけていただけたら非常に喜びます。

描きたいと思っていて長いこと描けなかった艦娘を描くことが
できて非常に満足しました。

それではまたどこかでお会いしましょう。

発行日：2016年12月29日
印刷：株式会社グラフィック様
mail：pokachurorichu@gmail.com

発行者：ぽかちゅ
HP：http://pokachurorichu.tumblr.com/
twitter：@pokachurorichu



-Kan Colle Fetishism book-